クイックスタートガイド コンピュータ管理

Version 9.100.0

jamf

© copyright 2002-2017 Jamf. All rights reserved.

Jamf は、このガイドが正確であることを保証するために、最大限の努力を続けます。

Jamf
100 Washington Ave S Suite 1100
Minneapolis, MN 55401-2155
(612) 605-6625

著作権法の下、Jamf の書面による事前の同意なしに、本書の全体または一部を無断で複製することは禁じられています。

Adobe は Adobe Systems Incorporated の商標です。

Apache Tomcat と Tomcat は、 Apache Software Foundation の商標です。

Apple、Apple ロゴ、Apple Remote Desktop、Finder、FireWire、Mac、macOS および OS X は、米国およびその他の国において登録された商標です。 App Store は、米国およびその他の国における Apple Inc. のサービスマークです。

CASPER SUITE、COMPOSER®、COMPOSER ロゴ®、Jamf、Jamf ロゴ、JAMF SOFTWARE®、JAMF SOFTWARE ロゴ®、RECON® および RECON ロゴ® は、米国およびその他の国において登録もしくは慣習法による JAMF SOFTWARE, LLC の商標です。

Java および MySQL は、Oracle とその関連会社の登録商標です。 その他の名称は、それぞれの所有者の商標です。

Red Hat および Red Hat Enterprise Linux は、米国およびその他の国において登録された Red Hat, Inc. の商標です。

Windows は、米国およびその他の国において登録された Microsoft Corporation の登録商標です。

本ページに記載されている全ての製品名およびサービス名は、各社の登録商標または商標のどちらかです。

項目

4 ガイドの使い方

5 レッスンプラン

7 前提要件
8 Jamf Software サーバ のインストール
9 Mac に JSS をインストール
12 Linux に JSS をインストール
15 Windows に JSS をインストール

18 レッスン
19 コンピュータの登録
20 ネットワークスキャナを使って コンピュータを登録
22 QuickAdd パッケージを使用したコンピュータ登録
23 インベントリ情報の表示
25 OS パッケージを追加
26 構成の作成
28 Image コンピュータ
30 ソフトウェアアップデートサーバを追加
31 ソフトウェアアップデートのための実行ポリシーを作成
32 パッケージを追加
33 パッケージインストールのためのポリシーを作成
35 Mac App Store App の配布
36 他のコンピュータの画面共有
37 コンピュータ構成プロファイルの作成
39 ライセンス取得済みソフトウェアレコードの作成
41 Casper Remote を使ったインベントリの更新
42 アプリケーション使用ログの表示

43 さらに詳しく
44 さらに詳しく: インベントリ
45 さらに詳しく: Imaging
46 さらに詳しく: ソフトウェ配布
47 さらに詳しく: 設定とセキュリティ管理
48 さらに詳しく: ライセンス管理
49 さらに詳しく: 使用管理
50 付録: パッケージ構築

ガイドの使い方

Casper Suite によるコンピュータ管理は、8つの原則に基づいています。 インベントリ、Imaging、パッチ管理、ソフトウェア配布、リモートコントロール、設定とセキュリティ管理、ライセンス管理および使用管理です。このガイドは1つの原則ごとに、レッスンに基づくワークフローを含んでいます。

このガイドの使用では、個々のワークフローをナビゲートする 「レッスンプラン」 セクションまたはブックマークパネルを活用してください。所属するオーガニゼーションニーズを満たすどのような要望においても、1つもしくは全てのワークフローを完了することができます。

ワークフロー完了後、このガイドの中の適切な「さらに詳しく」セクションを見てください。個々の「さらに詳しく」セクションは、Casper Suite 管理者ガイドの中にある、拡張オプションと関連セクションのリストを含んでいます。

個々のレッスンを、1回だけは完了する必要があります。もしすでに 1 つレッスン(例えば、JSS インストール)を完了していたならば、それをスキップして次のワークフローに進んでください。

レッスンプラン

インベントリ	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	コンピュータの登録
	3	インベントリ情報の表示
Imaging	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	OS パッケージを追加
	3	構成の作成
	4	Image コンピュータ
パッチ管理	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	コンピュータの登録
	3	ソフトウェアアップデートサーバを追加
	4	ソフトウェアアップデートのための実行ポリシーを作成
ソフトウェア配布	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	コンピュータの登録
	3	パッケージを追加
	4	パッケージインストールのためのポリシーを作成
	5	Mac App Store App の配布
リモートコントロール	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	コンピュータの登録
	3	他のコンピュータの画面共有

設定とセキュリティ管理	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	コンピュータの登録
	3	コンピュータ構成プロファイルの作成
ライセンス管理	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	コンピュータの登録
	3	ライセンス取得済みソフトウェアレコードの作成
使用管理	1	Jamf Software サーバ のインストール
	2	コンピュータの登録
	3	Casper Remote を使ったインベントリの更新
	4	アプリケーション使用ログの表示

前提要件

- Jamf Software サーバ のインストール
- Mac に JSS をインストール
- Linux に JSS をインストール
- Windows に JSS をインストール

Jamf Software サーバ のインストール

Jamf Software サーバ (JSS) は Casper Suite のコア管理機能となる Web アプリケーションです。JSS によって、マネージドコンピュータ やモバイル機器のインベントリ、リモート管理、構成に関するタスクが可能になります。Casper Suite の管理アプリケーションはすべて JSS と交信します。

以下のステップで、JSS をインストール:

1. 必須ソフトウェア (これまでにインストールしていない場合) をインストール
2. Jamfsoftware データベースを作成
3. JSS インストーラを実行

JSS は以下のプラットフォームにインストール可能です：

- Mac (macOS に JSS をインストール を参照)
- Linux (Linux に JSS をインストール を参照)
- Windows (Windows に JSS をインストール を参照)

Mac に JSS をインストール

要件

Mac 用 JSS インストーラは、コンピュータに以下が必要です:

- Intel プロセッサ(64-bit 対応)
- 2GB 以上の RAM
- 400MB 以上の空き容量があるハードディスク
- macOS v10.7 バージョン以降
- macOS サーバ(推奨)
- Java SE Development Kit (JDK) Mac 対応 1.7 または 1.8.
  以下よりJDK のダウンロードが可能:
  http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/jdk8-downloads-2133151.html
- Java Cryptography Extension (JCE) Unlimited Strength Jurisdiction Policy Files 1.7 または 1.8 (必ず Java と同一のバージョン)
  JCE のダウンロードが可能:
  http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/jce8-download-2133166.html
- MySQL 5.6.x もしくは 5.7.x (MySQL 5.7.x を推奨します)
  MySQL のダウンロードが可能: https://www.mysql.com/downloads/
- Ports 8443 and 9006 available

ステップ 1: 必須ソフトウェアのインストール

Jamfsoftware データベースの作成および JSS インストーラの実行前に Java および MySQL を必ずサーバへインストールしてください。Java および MySQL のインストールと設定方法については、以下、ナレッジベースの資料を参照のこと:

Installing Java and MySQL

ステップ 2: Jamfsoftware データベースの作成

JSS データとそれにアクセスできる MySQL ユーザを保存する MySQL データベースを作成します。

このセクションでは、データベース名、ユーザ名、パスワードに MySQL のデフォルト設定を使用しています。所属するオーガニゼーションのセキュリティ要件に応じてカスタマイズしたユーザネームとパスワードの使用をお勧めします。尚、ユーザネームに「root」を使用することはお勧めできません。必要に応じて、異なるデータベース名に設定することもできます。

次の説明で使用する MySQL のデフォルト設定:

- データベース名 : jamfsoftware
- ユーザ名: jamfsoftware
- パスワード: jamfsw03

注: MySQL 設定をカスタマイズする場合、JSS インストーラの実行時にデータベース領域へカスタム設定の入力プロンプトが表示されます。

1. ターミナルを開き、MySQL のコマンドラインに「root」としてアクセスするため、次を入力:

```
mysql -u root -p
```

MySQL がパスにない、あるいは別の場所にインストールされている場合、MySQL のコマンドラインを更新するか、次を入力:

```
/path/to/mysql -u root -p
```

注: MySQL のデフォルトパス: /usr/local/mysql/bin/

2. プロンプトが表示されたら、MySQL の「root」ユーザ用パスワードを入力します。「root」パスワードを作成していない場合、リターンキーを押してください。
3. データベースの作成には次を実行:

```
CREATE DATABASE jamfsoftware;
```

jamfsoftware の代わりになるデータベース名を入力し、カスタマイズした例:

```
CREATE DATABASE myDatabaseName;
```

4. 新しい MySQL ユーザを作成:

```
CREATE USER 'jamfsoftware'@'localhost' IDENTIFIED BY 'jamfsw03';
```

5. ユーザへ与えるデータベースのアクセス権 (アクセス許可):

```
GRANT ALL ON jamfsoftware.* TO 'jamfsoftware'@'localhost’;
```

「jamfsoftware」および「jamfsw03」の代わりになるデータベース名を入力し、MySQL のユーザ名とパスワードをカスタマイズした例:

```
CREATE USER 'customUsername'@'localhost' IDENTIFIED BY
'customPassword';
```

```
GRANT ALL ON myDatabaseName.* TO 'customUsername'@'localhost’;
```

ステップ 3: JSS インストーラの実行

Mac 用の JSS インストーラは、Apache Tomcat および JSS Web アプリケーションをインストールします。また、初期の配布ポイントも作成します。

Mac 用の JSS インストーラは、サーバへコピーしてから実行します。その後、インストーラを開き、画面上に表示される指示に従います。

Linux に JSS をインストール

要件

Linux 用 JSS インストーラは、サーバに以下が必要です:

- Intel プロセッサ(64-bit 対応)
- 2GB 以上の RAM
- 400MB 以上の空き容量があるハードディスク
- 次のいずれかのオペレーティングシステム:
  - Ubuntu 12.04 LTS サーバ(64-bit)
  - Ubuntu 14.04 LTS サーバ(64-bit)
  - Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 6.4、6.5、6.6 または 7.0
- Java Development Kit (OpenJDK) 7 または 8 を開きます
  インストール手順については、http://openjdk.java.net/install/ を参照してください。
- MySQL 5.6.x もしくは 5.7.x (MySQL 5.7.x を推奨します)
  MySQL のダウンロードが可能: https://www.mysql.com/downloads/
- Ports 8443 and 8080 available

ステップ 1: 必須ソフトウェアのインストール

Jamfsoftware データベースの作成および JSS インストーラの実行前に Java および MySQL を必ずサーバへインストールしてください。Java および MySQL のインストールと設定方法については、以下、ナレッジベースの資料を参照のこと:

Installing Java and MySQL

ステップ 2: Jamfsoftware データベースの作成

JSS データとそれにアクセスできる MySQL ユーザを保存する MySQL データベースを作成します。

このセクションでは、データベース名、ユーザネーム、パスワードに MySQL のデフォルト設定を使用しています。所属するオーガニゼーションのセキュリティ要件に応じてカスタマイズしたユーザネームとパスワードの使用をお勧めします。尚、ユーザネームに「root」を使用することはお勧めできません。必要に応じて、異なるデータベース名に設定することもできます。

次の説明で使用する MySQL のデフォルト設定:

- データベース名 : jamfsoftware
- ユーザ名: jamfsoftware
- パスワード: jamfsw03

注: MySQL 設定をカスタマイズする場合、JSS インストーラの実行時にデータベース領域へカスタム設定の入力プロンプトが表示されます。

1. コマンドプロンプトを開き、「root」として MySQL のコマンドラインユーティリティにアクセスする際の入力例:

```
mysql -u root -p
```

MySQL のインストール時に「root」パスワードを作成しなかった場合、-p は入力しないでください。
MySQL がパスにない、あるいは別の場所にインストールされている場合、MySQL のコマンドラインを更新するか、次を入力:

```
/path/to/mysql -u root -p
```

注: MySQL のデフォルトパス: /usr/local/mysql/bin/

2. プロンプトが表示されたら、MySQL の「root」ユーザ用パスワードを入力します。
3. データベースの作成には次を実行:

```
CREATE DATABASE jamfsoftware;
```

jamfsoftware の代わりになるデータベース名を入力し、カスタマイズした例:

```
CREATE DATABASE myDatabaseName;
```

4. 新しい MySQL ユーザを作成:

```
CREATE USER 'jamfsoftware'@'localhost' IDENTIFIED BY 'jamfsw03';
```

5. ユーザへ与えるデータベースのアクセス権 (アクセス許可):

```
GRANT ALL ON jamfsoftware.* TO 'jamfsoftware'@'localhost’;
```

「jamfsoftware」および「jamfsw03」の代わりになるデータベース名を入力し、MySQL のユーザ名とパスワードをカスタマイズした例:

```
CREATE USER 'customUsername'@'localhost' IDENTIFIED BY
'customPassword';
```

```
GRANT ALL ON myDatabaseName.* TO 'customUsername'@'localhost’;
```

ステップ 3: JSS インストーラの実行

Linux 用の JSS インストーラは Apache Tomcat および JSS Web アプリケーションをインストールします。

1. 1. Linux 用の JSS インストーラ(jssinstaller.run)をサーバへコピーします。
   注: Linux 用の JSS インストーラを入手する際は、Jamf Nation へログインし、次ページの Casper Suite DMG の下をクリック:
   https://jamfnation.jamfsoftware.com/myAssets.html
2. スーパーユーザの権限を持つユーザとしてサーバにログインします。
3. インストーラを開始する際の実行コマンド例:

   ```
   sudo sh /path/to/jssinstaller.run
   ```

4. システム構成の確認が完了した時点で 「y」を入力して次へ進みます。
5. (RHEL限定) インストールが完了したら、ファイアウォール構成を編集。port 8443 へアクセスする。次を実行:

   ```
   sudo system-config-firewall-tui
   ```

6. (RHEL限定)その他またはカスタマイズを選択し、TCP プロトコルの port 8443 をマニュアル入力します。GUI またはシェルインタフェースのいずれかによって、オプション選択が異なります。
7. 登録済みコンピュータの Web ブラウザを開き、プロトコル、IP アドレス、サーバの DNS 名、port を入力し、そこから JSS へアクセスします。 例: https://jss.mycompany.com:8443/"
8. Jamfsoftware データベース作成時にデータベース名、ユーザ名、パスワードをカスタマイズした場合、あるいは MySQL が port 3306 以外のポートを使用している場合、データベース接続プロパティ領域が表示されます。画面上の指示に従って、JSS と jamfsoftware データベースを接続すると、JSS へアクセスできます。

Windows に JSS をインストール

要件

Windows 用 JSS インストーラは、サーバに以下が必要です:

- Intel プロセッサ(64-bit 対応)
- 2GB 以上の RAM
- 400MB 以上の空き容量がある
- Windows サーバ 2008 R2(64-bit 対応)、Windows サーバ 2012(64-bit 対応)、または Windows サーバ 2012 R2(64-bit 対応) Windows x64 対応
- Java SE Development Kit (JDK) 1.7 または 1.8
  以下よりJDK ダウンロードが可能:
  http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/jdk8-downloads-2133151.html
- Java Cryptography Extension (JCE) Unlimited Strength Jurisdiction Policy Files 1.7 または 1.8 (必ず JDK と同一のバージョン)
  JCE のダウンロードが可能:
  http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/downloads/jce8-download-2133166.html
- MySQL 5.6.x もしくは 5.7.x (MySQL 5.7.x を推奨します)
  MySQL のダウンロードが可能: https://www.mysql.com/downloads/
- Ports 8443 and 8080 available

ステップ 1: 必須ソフトウェアのインストール

Jamfsoftware データベースの作成および JSS インストーラの実行前に Java および MySQL を必ずサーバへインストールしてください。Java および MySQL のインストールと設定方法については、以下、ナレッジベースの資料を参照のこと:

Installing Java and MySQL

ステップ 2: Jamfsoftware データベースの作成

JSS データとそれにアクセスできる MySQL ユーザを保存する MySQL データベースを作成します。

このセクションでは、データベース名、ユーザ名、パスワードに MySQL のデフォルト設定を使用しています。所属するオーガニゼーションのセキュリティ要件に応じてカスタマイズしたユーザネームとパスワードの使用をお勧めします。尚、ユーザネームに「root」を使用することはお勧めできません。必要に応じて、異なるデータベース名に設定することもできます。

次の説明で使用する MySQL のデフォルト設定:

- データベース名 : jamfsoftware
- ユーザ名: jamfsoftware
- パスワード: jamfsw03

注: MySQL 設定をカスタマイズする場合、JSS インストーラの実行時にデータベース領域へカスタム設定の入力プロンプトが表示されます。

1. ターミナルを開き、MySQL のコマンドラインに “root” としてアクセスするため、次を入力:

```
mysql -u root -p
```

MySQL がパスにない、あるいは別の場所にインストールされている場合、MySQL のコマンドラインを更新するか、次を入力:

```
/path/to/mysql -u root -p
```

注: MySQL のデフォルトパス: /usr/local/mysql/bin/

2. プロンプトが表示されたら、MySQL の「root」ユーザ用パスワードを入力します。
3. データベースの作成には次を実行:

```
CREATE DATABASE jamfsoftware;
```

'jamfsoftware の代わりになるデータベース名を入力し、カスタマイズした例:

```
CREATE DATABASE myDatabaseName;
```

4. 新しい MySQL ユーザを作成:

```
CREATE USER 'jamfsoftware'@'localhost' IDENTIFIED BY 'jamfsw03';
```

5. ユーザへ与えるデータベースのアクセス権 (アクセス許可):

```
GRANT ALL ON jamfsoftware.* TO 'jamfsoftware'@'localhost’;
```

「jamfsoftware」および「jamfsw03」の代わりになるデータベース名を入力し、MySQL のユーザ名とパスワードをカスタマイズした例:

```
CREATE USER 'customUsername'@'localhost' IDENTIFIED BY
'customPassword';
```

```
GRANT ALL ON myDatabaseName.* TO 'customUsername'@'localhost’;
```

ステップ 3: JSS インストーラの実行

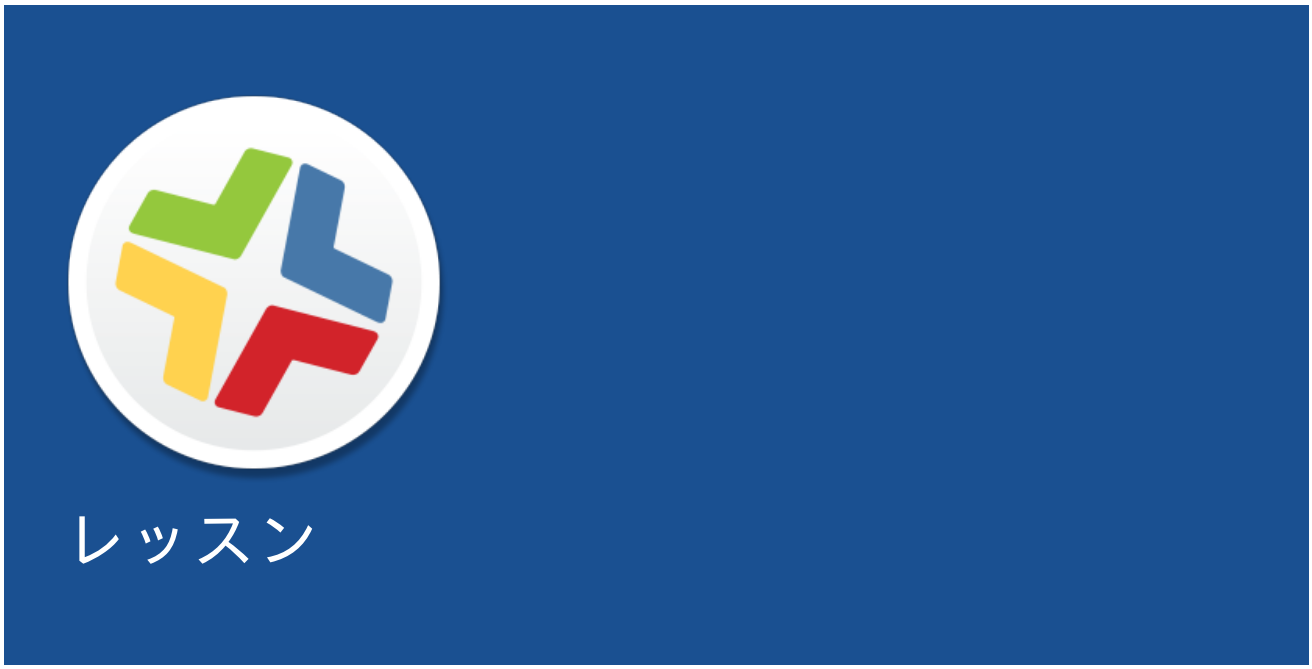
Windows 用の JSS インストーラは Apache Tomcat および JSS Web アプリケーションをインストールします。

注: Windows 用の JSS インストーラを入手する際は、Jamf Nation へログインし、次ページの Casper Suite DMG の下にある 「別のダウンロード方法を表示」をクリック:

https://jamfnation.jamfsoftware.com/myAssets.html

Windows 用の JSS インストーラは、サーバへコピーしてから実行します。その後、インストーラを開き、画面上に表示される指示に従います。

注: インストーラを実行できるのは管理者のみです。


レッスン

コンピュータの登録

登録プロセスによって、Jamf Software サーバ (JSS) へコンピュータを追加します。Mac コンピュータが登録されると、そのインベントリ情報が JSS へ転送されることによって、マネージドに含まれます。その結果、ユーザはコンピュータ上で、インベントリ、リモート管理、構成に関するタスクができるようになります。コンピュータの登録時には、管理の際に使用するローカル管理者アカウント(「管理用アカウント」)を指定します。

本ガイドでは、2種類の登録方法について説明します。

- ネットワークスキャナを使用した登録 ― Recon のネットワークスキャナを使用し、指定された IP アドレスの範囲内にある複数の Mac コンピュータをリモート登録できます。Recon は指定された IP アドレスの範囲をスキャンし、SSH(リモートログイン)によって接続できるあらゆるコンピュータを登録します。
  詳しくは、「ネットワークスキャナを使用したコンピュータ登録」を参照してください。
- QuickAdd パッケージを使用した登録 ― Recon のインストール時に Mac コンピュータを登録する QuickAdd パッケージを作成します。QuickAdd パッケージの導入には、Apple Remote Desktop または Casper Suite をはじめとする、あらゆる導入支援ツールを使うことができます。

  詳しくは、「QuickAdd パッケージを使用したコンピュータ登録」を参照してください。

その他の登録方法については、Casper Suite 管理ガイド 「コンピュータの登録について」 を参照のこと。

ネットワークスキャナを使って コンピュータを登録

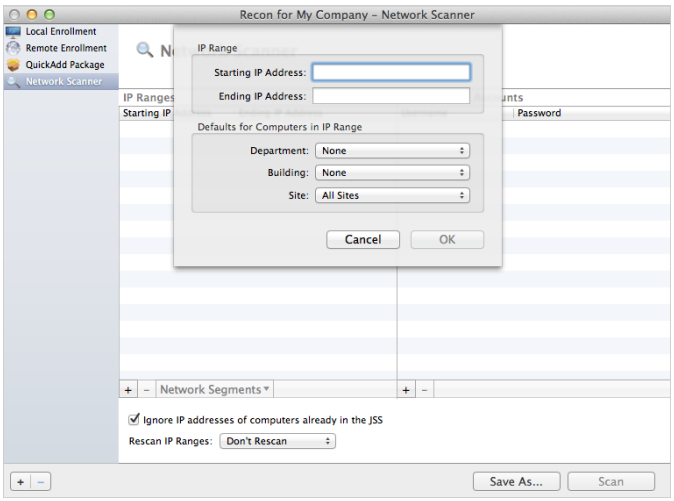
Recon のネットワークスキャナによって、複数の Mac コンピュータをリモート登録できます。Recon は指定された IP アドレスの範囲をスキャンし、SSH(リモートログイン)によって接続できるあらゆるコンピュータを登録します。

要件

ネットワークスキャナを使用してコンピュータを登録する場合、コンピュータ上の SSH を必ず有効にしておきます。

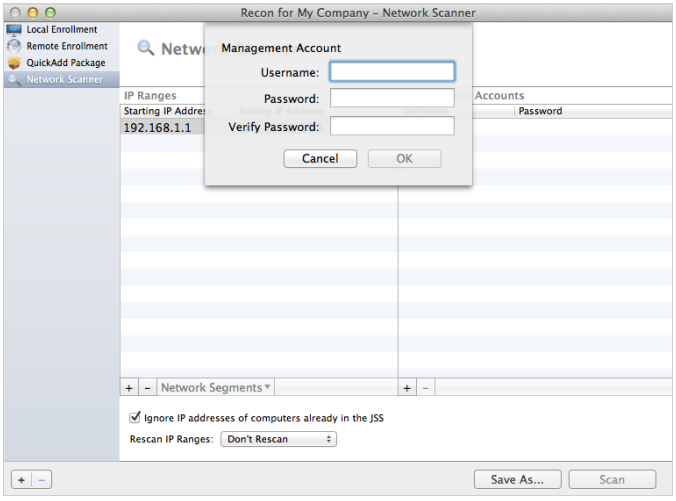
ネットワークスキャナを使用したコンピュータ登録

1. Recon を開き、JSS の認証を実行します。
2. サイドバーの **Network Scanner** を選択します。
3. スキャン対象に含める IP アドレスの範囲を指定します。
   a. IP アドレス一覧の下にある追加(+)をクリックします。
   b. 最初と最後の IP アドレスを入力します。



   c. OK をクリック
4. 指定された IP アドレスの範囲内にあるコンピュータに対して SSH アクセス権を持つ、ローカル管理者アカウントを1つ以上指定します。ネットワークスキャナがネットワーク上のコンピュータを特定し、SSH を通じた接続に使用できるアカウントを検索します。最初に検索された有効なアカウントを管理用アカウントとして使用します。
   a. アカウント一覧の下にある追加(+)をクリックします。

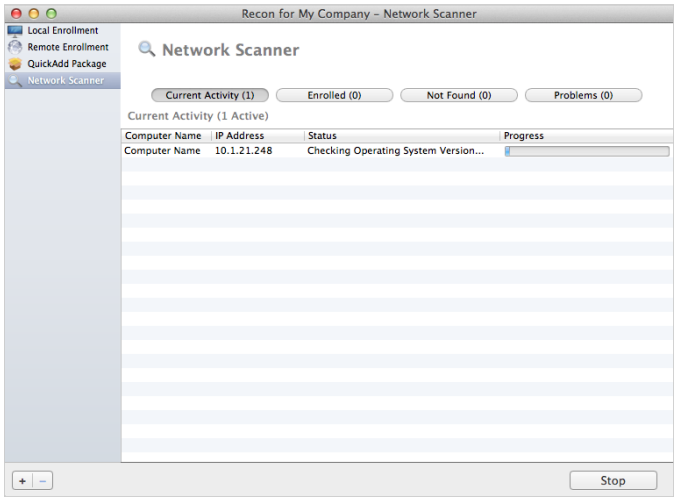
b. コンピュータに SSH アクセスできるローカル管理者アカウント認証を入力します。



c. OK をクリック

d. 指定された IP アドレスの範囲内に管理者アカウントが複数ある場合、必要に応じて c までのステップを繰り返してください。

5. スキャンをクリックします。Recon は指定された IP アドレスの範囲をスキャンし、SSH によって接続できるあらゆるコンピュータを登録します。スキャンのプログレスは現在のアクティビティ領域に表示されます。スキャンの結果は Enrolled/Not Found/Problems の各領域に表示されます。



管理者ガイド参照セクション

"ネットワークスキャナ"

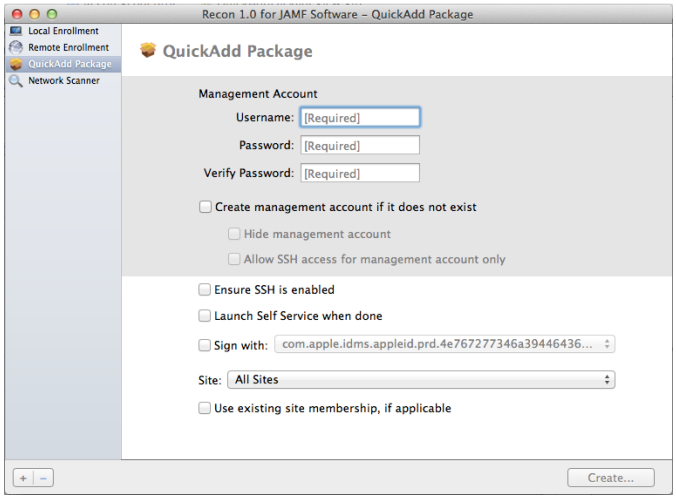
QuickAdd パッケージを使用したコンピュータ登録

Recon のインストール時に Mac コンピュータを登録する QuickAdd パッケージを作成することができます。このタイプの QuickAdd パッケージの展開、Apple Remote Desktop または Casper Suite をはじめとする、あらゆる導入支援ツールを使うことができます。

QuickAdd パッケージをダブルクリックし、画面上に表示される指示に従ってインストールを行います。

QuickAdd パッケージを使用したコンピュータ登録

1. Recon を開き、JSS の認証を実行します。
2. サイドバーの QuickAdd パッケージを選択します。
3. ローカル管理者アカウントに認証情報を入力します。
このアカウントは管理用アカウントとして使用されます。



4. 作成をクリックします。そして、パッケージの名称と保存場所を指定します。
5. リモート導入支援ツールを使用してパッケージを導入します。

QuickAdd パッケージがインストールされ、JSS に登録されます。

管理者ガイド参照セクション

"Recon を使用して作成された QuickAdd パッケージ"

インベントリ情報の表示

Jamf Software サーバ (JSS) は、各コンピュータのインベントリ情報の詳細を保存します。JSS にある以下の情報の表示と編集が可能:

- 一般
- ハードウェア
- オペレーティングシステム
- ユーザとロケーション
- 購入
- 拡張属性
- 容量
- 周辺機器
- ライセンス取得済みソフトウェア
- アプリケーション
- フォント
- Plug-ins
- プロファイル
- 証明書
- パッケージの受領
- ソフトウェアのアップデート
- ローカルユーザアカウント
- プリンタ
- サービス
- 添付ファイル

コンピュータのインベントリ情報の表示

1. Web ブラウザで JSS にログイン
2. ページトップのコンピュータをクリック
3. インベントリ検索をクリック
   スマートフォンもしくは iPod touch では、このオプションはポップアップメニューとなります。
4. 検索ポップアップメニューから「コンピュータ」を選択
5. 検索フィールドはブランクのまま、Enter キーを押します。
6. 情報を確認したいコンピュータをクリックします。
   そのコンピュータのインベントリ情報が表示されます。
7. カテゴリを使い、コンピュータの情報を表示します。

管理者ガイド参照セクション

"コンピュータのインベントリ情報の表示と編集"

さらに詳しく

インベントリ機能の詳細については 「さらに詳しく」を参照のこと:インベントリ

OS パッケージを追加

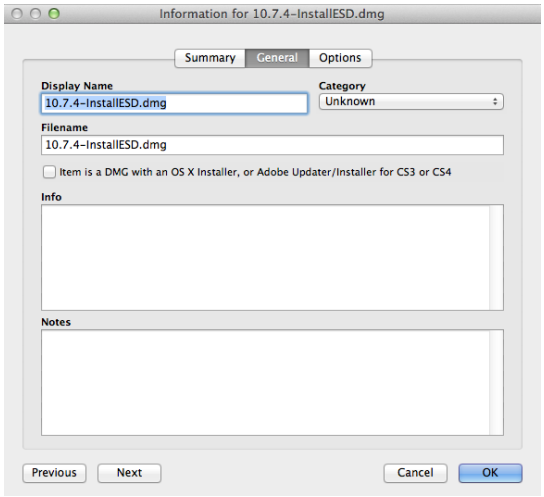
コンピュータを Imaging する前に Casper Admin へ OS パッケージを追加します。

要件

Casper Admin へ OS パッケージを追加するには、JSS の配布ポイントが必要です。(詳しくは、Casper Suite 管理者ガイドの"配布ポイントについて"を参照してください。)

Casper Admin へ OS パッケージの追加

1. Casper Admin を開き、JSS の認証を実行します。
2. Casper Admin のメインレポジトリへ OS パッケージをドラッグします。パッケージはカテゴリに追加されない限り、不明カテゴリ内に青色テキストで表示されます。
3. メインレポジトリのパッケージをダブルクリックします。
4. 一般タブをクリックし、パッケージ表示名を入力します。



5. パッケージのカテゴリを選択
6. OK をクリック

管理者ガイド参照セクション

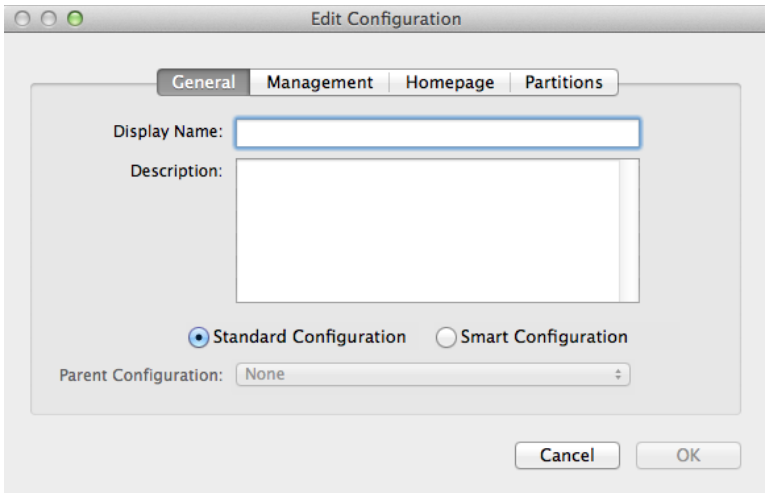
"パッケージの管理"

構成の作成

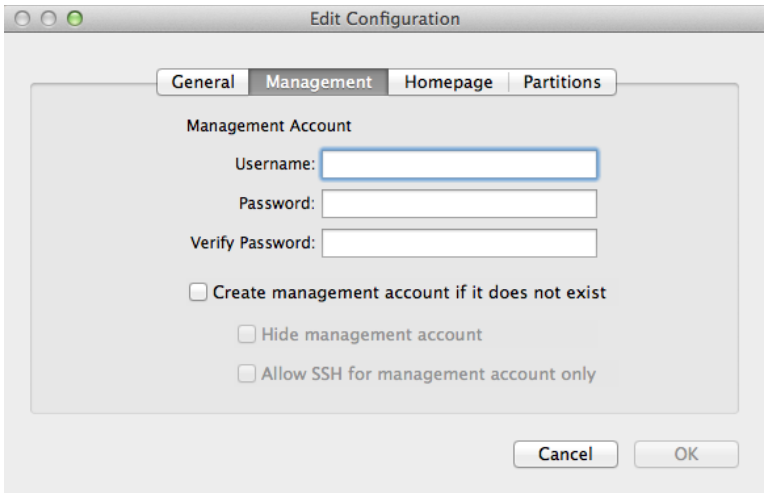
Casper Admin へ OS パッケージを追加した後、Imaging のためにコンピュータ構成を作成します。構成のモジュールイメージによって、Imaging の実行中にインストールや設定に必要なものを素早く特定することができます。構成のモジュールイメージは標準的なイメージとは異なり、簡単に構成を変更でき、改めて構築し直す手間を省きます。

構成作成中

1. Casper Admin を開き、JSS の認証を実行します。
2. **New Config (新構成)** をクリック
3. 一般領域に構成の名称と説明を入力します。



4. 管理タブをクリックし、管理に使用するローカル管理者アカウントの認証情報を入力します



5. OK をクリック
   サイドバーの構成リストに新しい構成が追加されます。
6. 作成した構成へメインレポジトリから OS パッケージをドラッグします。

管理者ガイド参照セクション

構成

Image コンピュータ

構成作成後、その構成を使用し、コンピュータを image します。

Casper Suite がインストールされたコンピュータの Imaging には、ターゲットドライブ以外の起動ディスクでコンピュータを起動し、または構成を展開する Casper Imaging アプリケーションを使うことが含まれます。

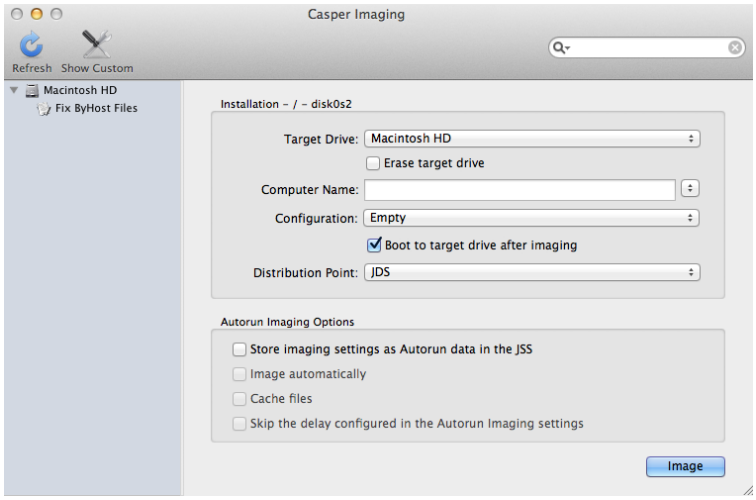
要件

コンピュータの image には次が必要:

- JSS の配布ポイント(詳しくは、Casper Suite 管理者ガイドの「配布ポイントについて」を参照してください。)
- USB/FireWire ドライブ、Restore partition、または Casper Imaging がインストールされた NetBoot イメージ

Imaging コンピュータ

1. ターゲットコンピュータ上で USB/FireWire ドライブ、Restore partition またはNetBoot Restore partition イメージを起動します。
2. Casper Imaging を開き、ローカル認証を実行します。
3. プロンプトが表示されたら、JSS の認証を実行します。
4. ターゲットドライブのポップアップメニューから image するドライブを選択します。



5. ターゲットドライブの削除チェックボックス (**Erase target drive**) を選択します。
6. コンピュータ名フィールドに名称を入力し、コンピュータ名を割り当てます。
7. 構成ポップアップメニューから構成を選択します。
8. Imaging チェックボックスでターゲットドライブへの Boot を選択します。

9. 配布ポイントポップアップメニューから配布ポイントを選択します。
10. Image をクリック

管理者ガイド参照セクション

標準 Imaging

さらに詳しく

Imaging 機能の詳細については 「さらに詳しく」を参照のこと: Imaging

ソフトウェアアップデートサーバを追加

コンピュータのソフトウェアアップデートに必要なポリシーを作成する前に、Jamf Software サーバ (JSS) に組織内のソフトウェアアップデートサーバを追加します。

組織内のソフトウェアアップデートサーバを使用すれば、Apple からのアップデート配布時に使用する回線容量を低減できます。Apple のソフトウェアアップデートサーバから各コンピュータへダウンロードするのではなく、サーバ1台ごとに1回のダウンロードで済みます。

組織内のソフトウェアアップデートサーバを使用すれば、各コンピュータへアップデートを配布する前にその管理と許可を行えます。

ソフトウェアアップデートサーバを追加

1. Web ブラウザで JSS にログイン
2. ページ右上隅の設定をクリック
3. **Server Infrastructure (サーバインフラストラクチャ)** をクリックします。
   スマートフォンもしくは iPod touch では、このオプションはポップアップメニューとなります。
4. **Software Update Servers (ソフトウェアアップデートサーバ)** をクリックします。
5. 新規をクリック
6. 領域上で、設定を構成
7. 保存をクリック

管理者ガイド参照セクション

"ソフトウェアアップデートサーバ"

ソフトウェアアップデートのための実行ポリシーを作成

JSS へソフトウェアアップデートサーバを追加した後、コンピュータ上でソフトウェアアップデートを実行するためのポリシーを作成します。

ポリシー作成時には、自動化したいタスク、ポリシーを実行("トリガ")するタイミングとその頻度("実行回数")、実行の対象となるユーザとコンピュータ("適用範囲")を指定します。

ソフトウェアアップデートの実行ポリシーを作成

1. Web ブラウザで JSS にログイン
2. ページトップのコンピュータをクリック
3. ポリシーをクリック
   スマートフォンもしくは iPod touch では、このオプションはポップアップメニューとなります。
4. 新規をクリック
5. 一般 Payload をクリックし、ポリシー表示名を入力
6. ポリシーのトリガーと実行回数を選択
7. ソフトウェア Payload を選択し、構成をクリック
8. ポップアップメニューのソフトウェアアップデートサーバから、内部ソフトウェアアップデートサーバを選択します。
9. Scope タブをクリックし、ポリシーの Scope を設定
10. 保存をクリック

コンピュータ上のポリシーは、次回 JSS へチェックインする際に一般 Payload の Criteria を満たすScope 内で実行されます。Recurring check-in のデフォルト実行回数は15分ごとに1回です。

管理者ガイド参照セクション

"ソフトウェアアップデートの実行"

パッケージを追加

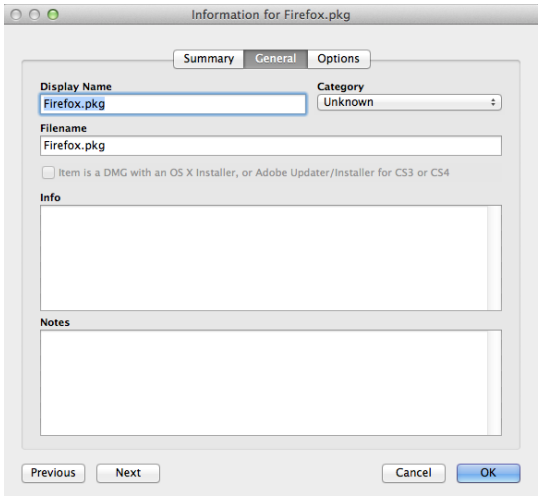
パッケージをインストールするためのポリシーを作成する前に、パッケージを Casper Admin へ追加します。

要件

Casper Admin にパッケージを追加するには、JSS の配布ポイントが必要です。(詳しくは、Casper Suite 管理者ガイドの “配布ポイントについて” を参照してください。)

Casper Admin へパッケージの追加

1. Casper Admin を開き、JSS の認証を実行します。
2. Casper Admin のメインレポジトリへパッケージをドラッグ
   パッケージはカテゴリに追加されない限り、不明カテゴリ内に青色テキストで表示されます。
3. メインレポジトリのパッケージをダブルクリックします。
4. 一般タブをクリックし、パッケージ表示名を入力します。



5. パッケージのカテゴリを選択
6. OK をクリック

管理者ガイド参照セクション

"パッケージの管理"

パッケージインストールのためのポリシーを作成

Casper Admin へパッケージを追加した後、パッケージをインストールするためのポリシーを作成します。

ポリシー作成時には、自動化したいタスク、ポリシーを実行(「トリガー」)するタイミングとその頻度(「実行回数」)、実行の対象となるユーザとコンピュータ(「Scope」)を指定します。

パッケージのインストールポリシーを作成

1. Web ブラウザで JSS にログイン
2. ページトップのコンピュータをクリック
3. ポリシーをクリック
   スマートフォンもしくは iPod touch では、このオプションはポップアップメニューとなります。
4. 新規をクリック
5. 一般 Payload をクリックし、ポリシー表示名を入力
6. ポリシーのトリガーと実行回数を選択
7. パッケージ Payload を選択し、構成をクリック
8. インストールしたいパッケージの追加をクリック
9. アクションポップアップメニューから「インストール」を選択
10. パッケージをコンピュータへダウンロードする配布ポイントの指定
11. Scope タブをクリックし、ポリシーの Scope を設定
12. 保存をクリック

コンピュータ上のポリシーは、次回 JSS へチェックインする際に一般 Payload の Criteria を満たす Scope 内で実行されます。Recurring check-inのデフォルト実行回数は15分ごとに1回です。

管理者ガイド参照セクション

"パッケージのインストール"

さらに詳しく

ソフトウェア配布機能の詳細については 「さらに詳しく」を参照のこと: ソフトウェアの配布

Mac App Store App の配布

Mac App Store の app を配布する際は、app の設定を構成し、それらの受け取り先となるユーザとコンピュータを指定します。(“Scope”)

1. Web ブラウザで JSS にログイン
2. ページトップのコンピュータをクリック
3. Mac App Store App をクリック
   スマートフォンもしくは iPod touch では、このオプションはポップアップメニューとなります。
4. 新規をクリック
5. App 名を入力し、App Store の国を選択して次へをクリック
6. 追加したい app の追加をクリック
7. 一般領域上で設定を検証
8. 適用範囲タブをクリックし、app の適用範囲を設定
9. 保存をクリック

適用範囲に含まれるコンピュータが次回 JSS と通信する際に app が配布されます。

管理者ガイド参照セクション

"Mac App Store Apps"

さらに詳しく

配布機能の詳細については 「さらに詳しく」を参照のこと: ソフトウェアの配布

他のコンピュータの画面共有

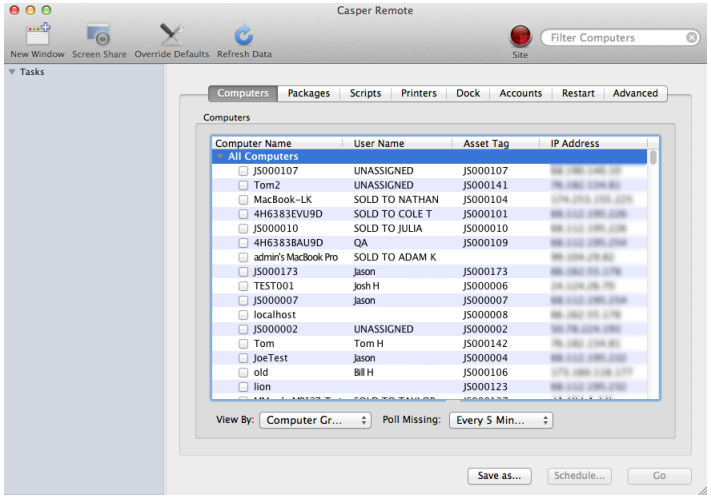
画面共有によって、別のコンピュータの画面をリモート的に表示、操作することができます。

要件

別のコンピュータの画面を共有するには、ターゲットコンピュータの SSH(リモートログイン)を必ず有効にします。

別のコンピュータの画面共有

1. Casper Remote を開き、JSS の認証を実行します。
2. 画面共有したいコンピュータをコンピューター覧から選択



3. 画面共有をクリック
4. プロンプトが表示されたら、画面共有オプションを選択します。

- エンドユーザが画面共有セッションを表示できるようにするには、「共有表示」(OS X v10.8 バージョン以降)または「共有表示の依頼」(OS X v10.7)を選択します。
- 画面共有セッションを非表示にするには、「ログイン」(OS X v10.8 バージョン以降)または「バーチャル表示へ接続」(OS X v10.7)を選択します。

管理者ガイド参照セクション

画面共有

コンピュータ構成プロファイルの作成

コンピュータ構成プロファイルは、Mac コンピュータとユーザの設定や制限を定義しやすい XML ファイル (.mobileconfig) です。Jamf Software サーバ (JSS) を使ってコンピュータ構成プロファイルを作成したり、プロファイルが適用されるべきコンピュータやユーザを指定することができます (「適用範囲」)。

コンピュータ構成プロファイル作成時には、プロファイルを適用するレベル (コンピュータレベルまたはユーザーレベル) を指定する必要もあります。各レベルにはユニークな payload セットがあり、両方に共通ないくつかのセットがあります。

このレッスンではコンピュータにパスコードを強制するコンピュータレベル構成プロファイルの作成方法を説明します。

要件

コンピュータ構成プロファイルをインストールするには、以下が必要です:

- JSS のプッシュ証明書 (詳しくは、Casper Suite Administrator's Guide の 「Push Certificates (プッシュ証明書)」 を参照のこと 。)
- JSS 内で構成された **Enable certificate-based authentication (証明書ベースの認証を有効にする)** と **Enable push notifications settings (プッシュ通知設定を有効にする)** (詳しくは、Casper Suite Administrator's Guide の 「Security Settings (セキュリティ設定)」 を参照のこと。)
- macOS v10.7 以降のコンピュータ
- (ユーザレベルのプロファイルのみ) ディレクトリサービスまたは MDM 有効のローカルユーザアカウントにバインディングされたコンピュータ (詳しくは、管理者ガイドの 「ディレクトリサービスへのバインディング」 および 「ローカルユーザアカウントの MDM を有効にする」 のナレッジベース資料を参照のこと。)

コンピュータ構成プロファイルの作成

1. Web ブラウザから JSS にログインします。
2. ページトップの **Computers** (コンピュータ) をクリックします。
3. **Configuration Profiles (構成プロファイル)** をクリックします。
4. **New（新規）** をクリックします。 .
5. 一般 Payload でプロファイルの名前を入力し、**Level** ポップアップメニューから 「Computer Level (コンピュータレベル)」 を選択してください。
6. パスコード Payload を選択し、Configure (構成) をクリックします。
7. 領域で設定を行います。
8. **Scope (適用範囲)** タブをクリックし、プロファイルの適用範囲を設定します。
9. **Save (保存)** をクリックします。

プロファイルは適用範囲内のコンピュータが次に JSS に接続した際にインストールされます。

管理者ガイド参照セクション

"コンピュータ構成プロファイル"

ライセンス取得済みソフトウェアレコードの作成

ライセンス取得済みソフトウェアは、現環境のソフトウェアに合ったライセンスをトラックできます。ライセンスをトラックしたいソフトウェアそれぞれに Jamf Software サーバ (JSS) においてライセンスソフトウェアレコードを作成しなければならなりません。これらのレコードによって、所有するライセンスおよび個々のライセンスにカウントするソフトウェアタイトルを保存できます。(「ソフトウェアの定義」)

コンピュータが JSS にインベントリを提出するたびに、コンピュータ上で、ソフトウェアのタイトルがライセンス取得済みソフトウェアレコードのソフトウェア定義と照合されます。一致すると、コンピュータは使用中のライセンスの数に数えられます。

ライセンス取得済みソフトウェアレコードの作成手順

1. Web ブラウザで JSS にログイン
2. ページトップのコンピュータをクリック
3. ライセンス取得済みソフトウェアをクリック
   スマートフォンもしくは iPod touch では、このオプションはポップアップメニューとなります。
4. テンプレートから新規作成をクリック
5. 使用したいライセンス取得済みソフトウェアのテンプレートをクリック
6. 一般領域でライセンス取得済みソフトウェアレコードの名前を入力
7. ライセンスタブをクリックし、ライセンス情報を追加
   a. 追加をクリック
   b. ライセンスタイプとライセンスカウントを含むライセンス情報を入力
   c. 保存 をクリック
   d. 必要に応じて a から c の作業を繰り返す
8. 追加をクリック

管理者ガイド参照セクション

「ライセンス取得済みソフトウェアレコード」

さらに詳しく

ライセンスマネジメントファンクションの詳細については「さらに詳しく」を参照のこと： ライセンス管理

Casper Remote を使ったインベントリの更新

アプリケーション使用ログを表示する前に、Casper Remote でインベントリを更新し、インベントリ情報が最新のものであることを確認します。

Casper Remote を使ったインベントリのアップデート

1. Casper Remote を開き、JSS の認証を実行します。
2. コンピュータリストの中からインベントリの更新に必要なコンピュータのチェックボックスを選択
3. アドバンスタブをクリックしインベントリ更新のチェックボックスを選択
4. Go をクリック

アプリケーション使用ログの表示

"アプリケーション使用ログでは、コンピュータ上のアプリケーションの使用頻度をモニターし、また使用傾向をトラックできます。 一台のコンピュータのアプリケーション使用ログは、指定した日付範囲内にコンピュータのフォアグラウンドにあった各アプリケーションの時間を示す円グラフで表示されます。"

一台のコンピュータでのアプリケーション使用ログの表示方法

1. Web ブラウザで JSS にログイン
2. ページトップのコンピュータをクリック
3. インベントリ検索をクリック
   スマートフォンもしくは iPod touch では、このオプションはポップアップメニューとなります。
4. 検索ポップアップメニューから「コンピュータ」を選択
5. 検索欄を空白にしたまま改行キーを押す
6. アプリケーション使用ログを閲覧したいコンピュータをクリック
7. 履歴タブをクリック
   選択したコンピュータのアプリケーション使用ログが表示されます。
8. 異なる日付範囲のアプリケーション使用ログを表示するには、日付範囲のポップアップメニューを使用して、開始日と終了日を指定し、更新をクリックします。

管理者ガイド参照セクション

アプリケーション使用

さらに詳しく

使用管理機能の詳細については「さらに詳しく」を参照のこと: 使用管理

さらに詳しく

- さらに詳しく: インベントリ
- さらに詳しく: Imaging
- さらに詳しく: ソフトウェア配布
- さらに詳しく: 設定とセキュリティ管理
- さらに詳しく: ライセンス管理
- さらに詳しく: 使用管理
- 付録: パッケージ構築

さらに詳しく: インベントリ

- 「コンピュータインベントリ収集」 - コンピュータが Jamf Software サーバ (JSS) にインベントリを送る頻度を決定するポリシーについて学びます。
- 「コンピュータインベントリ収集設定」 - インベントリの一部としての追加アイテムの収集方法およびアプリケーション、フォント、プラグイン収集の際に使うカスタム検索パスの指定方法を確認します。
- 「コンピュータ拡張属性」 - カスタムフィールドを使ってコンピュータ上のあらゆる種類のデータを収集する方法を確認します 。
- 「コンピュータインベントリ表示設定」 - シンプルコンピュータ検索の結果に表示される属性フィールドの変更方法を確認します。
- 「周辺機器」 - インベントリの一部として周辺機器情報を収集し保存する方法について学びます。
- 「シンプルコンピュータ検索」 - インベントリ内のアイテムをすばやく広範囲に検索する方法について学びます。
- 「アドバンスドコンピュータ検索」 - インベントリ内のコンピュータを検索するための詳細検索条件を使用する方法について学びます。
- 「コンピュータレポート」 - シンプルあるいはアドバンスドコンピュータ検索の結果として表示されたデータをエクスポートする方法を確認します。
- 「コンピュータでの Mass Action の実行」 - 潜在的に手間のかかるタスクを同時に複数のコンピュータで実行する方法を確認します。
- 「コンピュータのインベントリ情報の表示と編集」 - 表示と編集ができるコンピュータのインベントリ情報の種類について学びます。
- 「コンピュータの管理情報の表示」 - コンピュータのポリシーや管理対象環境設定などの管理情報を表示する方法を学びます。
- 「コンピュータの履歴を表示」 - コンピュータのログとその他の管理履歴の表示方法を学びます。
- 「 JSS からのコンピュータの削除」 - JSS からコンピュータを削除する方法を確認します。
- 「ユーザの割り当て」 - モバイルデバイスにユーザを割り当てる方法を確認します。
- 「シンプルユーザ検索」 - インベントリ内のユーザをすばやく広範囲に検索する方法について学びます。
- 「ユーザ用インベントリ情報の表示と編集」 - ユーザ用のインベントリ情報の表示と編集方法を確認します。

さらに詳しく: Imaging

- 「Imaging」 について - 様々な 「Imaging」 方法について学ぶ
- 「パッケージの管理」 - Imaging の際にパッケージを展開、もしくはアンインストールするためのパッケージの管理方法を学びます。
- 「スクリプトの管理」 - Imaging の際にスクリプトを実行するためのスクリプトの管理方法を学びます。
- 「プリンタの管理」 - Imaging の際にプリンタをマップもしくはアンマップするためのプリンタの管理方法を学びます。
- 「Dock アイテムの管理」 - Imaging の際に Dock アイテムを追加、もしくは削除するための Dock アイテムの管理方法を学びます。
- 「ディレクトリバインディングの管理」 - Imaging の際にコンピュータをバインドするためのディレクトリバインディングの管理方法を学びます。
- 「NetBoot Images へのコンピュータのバインディング」 - Imaging のためにコンピュータを NetBoot Image にブートする方法を確認します。
- 「PreStage Imaging 」 - 新しいコンピュータをネットワークに追加する際に image するための PreStage Imaging の使い方を確認します。
- 「Autorun Imaging 設定」 - Autorun Imaging 設定の構成方法を確認します。
- 「Autorun Imaging」 - Imaging の際に Imaging 設定を構成する必要がないように、Jamf Software サーバ (JSS) にそれらの設定を保管する方法を確認します。これによって、必要であれば Imaging プロセスの全自動化も可能です。
- 「Target Mode Imaging 」 - Firewire や Thunderbolt ケーブルを使って、ホストコンピュータに他のコンピュータを接続し、複数のコンピュータを後から image する方法を学びます。
- 「Imaging プロセスのカスタマイズ」 - PreStage や Autorun データを構成するために Casper Imaging や JSS を使って Imaging プロセスをカスタマイズする方法を確認します。

さらに詳しく: ソフトウェア配布

- 「Mac OS インストーラの管理」 - MacOS インストーラの DMG をコンピュータに展開するための DMG の管理方法を学びます。
- 「パッケージのキャッシング」 - パッケージのキャッシュ方法を確認します。
- 「キャッシュ化されたパッケージのインストール」 - キャッシュ化されたパッケージのインストール方法を学びます。
- 「パッケージのアンインストール」 - Casper Suite でインストールされたパッケージのアンインストール方法を確認します。
- 「Mac App Store Apps」 - Mac App Store apps の配布方法を確認します。
- 「VPP との統合」 - Apple の Volume Purchase Program (VPP) との統合方法を確認します。これにより、 VPP 管理された配布を活用することができます。
- 「コンピュータへの VPP 管理された配布」 - VPP 管理された配布用のコンピュータに Mac App Store apps を割り当てる方法を確認します。
- 「VPP ユーザ登録」 - VPP へのユーザ登録方法を確認します。これにより VPP 管理された配布用にユーザにコンテンツを割り当てることができます。
- 「ユーザに基づく VSS の割り当て」 - VPP 管理された配布のためのユーザへのコンテンツの割り当て方法を確認します。

さらに詳しく: 設定とセキュリティ管理

- 「macOS リモートコマンド」 - コンピュータセキュリティ管理のための macOS リモートコマンドの使い方を確認 します。
- 「スクリプトの管理」 - スクリプトをコンピュータ上で実行するためのスクリプトの管理方法を確認します。
- 「スクリプトの実行」 - スクリプトの実行方法を確認します。
- 「プリンタの管理」 - コンピュータにプリンタをマップもしくはアンマップするためのプリンタの管理方法を確認します。
- 「プリンタの登録」 - プリンタをマップもしくはアンマップする方法を確認します。
- 「Dock アイテムの管理」 - コンピュータに Dock アイテムを追加もしくは削除するための Dock アイテムの管理方法を学びます。
- 「Dock Item の登録」 - Dock アイテムを追加もしくは削除する方法を確認します。
- 「ローカルアカウントの登録」 - 新規ローカルアカウントの作成、既存のアカウントの削除、およびパスワードのリセット方法を確認します。
- 「管理用アカウントの登録」 - 管理用アカウントのパスワードのリセット方法と管理用アカウントの有効化もしくは無効化する方法を確認します。
- 「ディレクトリバインディングの管理」 - コンピュータをディレクトリサービスにバインドするためのディレクトリバインディングの追加方法を確認します。
- 「ディレクトリサービスへのバインディング」 - ディレクトリサービスへコンピュータをバインドする方法を確認します。
- 「ディスク暗号化構成の管理」 - コンピュータ上で File Vault 2 を認証するためのディスク暗号化構成を作成および管理する方法を確認します。
- 「ディスク暗号化構成の展開」 - File Vault2 を認証するためのディスク暗号化構成を展開する方法を確認します。
- 「Open Firmware/EFI パスワードの管理」 - コンピュータに Open Firmware/EFI パスワードを設定または削除する方法を確認します。

さらに詳しく: ライセンス管理

- 「ライセンス取得ソフトウェアについて」 - 現環境下でソフトウェアのライセンスを保存、トラックする方法を確認します。
- 「ライセンスコンプライアンス」 - Jamf Software サーバ (JSS) のライセンス取得ソフトウェアの記録を表示させ、ライセンスコンプライアンスを評価する方法を確認します。
- 「ライセンス使用状況の表示」 - ライセンスが使用されているコンピュータの表示方法を確認します。
- 「ライセンス取得ソフトウェアのアプリケーション使用状況」 ー現環境下でのライセンス取得ソフトウェアがどのくらいの使用頻度かを確認します。

さらに詳しく: 使用管理

- 「コンピュータの使用状況」 - 使用ログの表示方法を確認します。これにより各コンピュータがどれくらいの頻度で使用されているかを観察し、使用傾向をトラックすることができます。
- 「制限されたソフトウェア」 - ユーザやユーザグループが特定のアプリケーションにアクセスするのを防ぐ方法について学びます。

付録: パッケージ構築

Composer アップリケーションを使って Casper Suite で展開するソフトウェアパッケージを作成できます。

要件

コンピュータにインストールされていないソフトウェアのディスクイメージあるいはインストール DVD

パッケージの構築

1. Composer を開きローカル認証を実行
2. ツールバーの新規をクリック
3. サイドバーのインストールモニタにある Snapshot を選択
4. ノーマル Snapshot を選択し次へをクリック
5. パッケージの名前を入力して次へをクリック
6. ソフトウェアをインストール、構成し、パッケージソースの作成をクリックして、"アフター" Snapshot を開始
   Composer が最後のスナップショットを撮り終えると、パッケージ名がサイドバーの Sources リストに表示されます。
7. ソースリストから、パッケージソフトを選択
8. ツールバーの DMG として構築をクリック
9. パッケージを保存する場所を選択して保存をクリック

管理者ガイド参照セクション

- "パッケージソースの作成"
- "パッケージソースのコンテンツの表示と編集"
- "パッケージソースからのパッケージ構築"